

コード	202010107
記入日	H25.6.7

課コード	119
課名	建築課
課長名	法村 栄三
担当者	坂田 満

事業評価表【途中評価】

作成年度	平成 25 年度
------	----------

評価対象事業名称	今里地区埋立地整備事業
----------	-------------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 24 年度 ~ 平成 25 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	8
施策コード	202	施策名称	ゆとりある住宅・住環境の整備	項コード	5
基本事業コード	20201	基本事業名称	快適な住宅・住環境の整備	目コード	1
事務事業コード	2020101	事務事業名称	都市計画総務事業費	細目コード	920
関連計画		法令・条例規則等	都市計画法		

計画 (PLAN)		※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。				
対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 町民		(対象指標1) 22,254人口(H24.4.1現在)				
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
(全体計画) →今里地区開発行為変更申請書作成 業務委託 1.0式 →側溝整備 L=30m →公園整備 A=460㎡	(平成24年度) →今里地区開発行為変更申請書作成 業務委託 1.0式 →公園整備 A=460㎡ →公園の一部と側溝整備が平成25年度へ繰越となった。	開発行為変更申請	1.0式	100%	実施事業費÷ 計画事業費	平成24年度
		開発行為変更申請	1.0式	100%		平成24年度
		① (達成率分析)	業務委託は計画どおり完了した。			
		整備工事	1.0式	50.3%	実施校数÷ 計画校数	平成25年度
		整備工事	1.0式	50.3%		平成24年度
		② (達成率分析)	公園整備 A=460㎡のうち東屋建設のみ完成した。公園整備の一部と側溝整備が次年度繰越となり達成率が50%にとどまった。			
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
・開発行為の早期完了に向けて、今里地区埋立地整備事業を見直し、計画を縮小した開発行為変更許可申請を行うとともに必要最小限の整備を実施し、開発行為を完了させ、残地の有効活用を図ることを目的とする。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		土地の有効利用	-	-	-	平成25年度
		① (達成率分析)	土地開発行為を完了させることで、残地の有効活用が図られる。			
		② (達成率分析)				

実施 (DO)		※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。									
	単位	全体計画		23年度以前	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度以降	
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 式	1.0	1.0		1.0	1.0					
	② 式	1.0			1.0	-	1.0				
成果指標	①										
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	10,063	5,058		5,058	5,058	5,005				
直接事業費 A	千円	8,663	4,358		4,358	4,358	4,305				
人件費 B	千円	1,400	700		700	700	700				
内訳	従事職員数	人	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	10,063	5,058		5,058	5,058	5,005				

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

1次評価	妥当性	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ない	理由	都市計画法上、土地開発行為を適切に完了する必要がある。
	有効性	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる いない	理由	土地開発行為を完了させることで残地の有効活用が図られる。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	事業規模を必要最小限の計画に縮小している。
	効率性	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られていますか。	● いる いない	理由	最小限の人員、事業費にて最大の効果を上げている。
・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。		● 代えられる ● 代えられない	理由	最小の人員、事業費にて最大の効果を発揮できるよう努めており、他の手法には変えられない。	

改善 (ACTION)

1次評価	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	***** (平成24年度新規事業) *****
	今後、課題に向けた改善策	特になし。

2次評価	計画を見直し必要最小限の整備を実施して開発行為を完了させることにより、今後の利活用の円滑化が図られる。有効的な利用が図られるよう協議すること。
------	---

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	<table border="1"> <tr> <th>1次</th> <th>2次</th> <th>3次</th> <th></th> </tr> <tr> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> <td>このまま事業を継続</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>事業内容を見直しして事業を継続</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>事業費を見直しして事業を継続</td> </tr> </table>	1次	2次	3次		●	●		このまま事業を継続				事業内容を見直しして事業を継続				事業費を見直しして事業を継続	<table border="1"> <tr> <th>1次</th> <th>2次</th> <th>3次</th> <th></th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>類似事業と整理統合</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>事業の休止</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>事業の廃止</td> </tr> </table>	1次	2次	3次					類似事業と整理統合				事業の休止				事業の廃止
	1次	2次	3次																															
	●	●		このまま事業を継続																														
				事業内容を見直しして事業を継続																														
			事業費を見直しして事業を継続																															
1次	2次	3次																																
			類似事業と整理統合																															
			事業の休止																															
			事業の廃止																															

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。